

実施日：2021年10月2日（土）9:00～14:30

参加者：3名

学生：1名、大学職員：1名 学外関係者：1名

担当：杉山、中澤

■実施場所：高円山

■第4回 高円山登山

2021年10月2日（土）9:00～14:30

概要：春日山の南に連なる高円山。8月に戦没慰霊のために大文字の送り火の火床がある場所であり、かつて聖武天皇の離宮、尾上の宮があったとも伝えられる山です。春日山原始林と隣接する山ですが植生は大きく異なります。春日山との違いや、自然環境としての現状を確認しつつ、火床からの眺望を楽しみます。

9:00 大学正門集合

9:30 白毫寺町東山緑地にて鹿垣見学

10:00 高円山登山口付近の鹿垣、カシナガトラップ見学

10:20 高円山登山口登山開始（鹿による樹皮剥ぎ等を観察）

11:00 高円山火床到着・休憩

11:20 火床出発・山頂へ向け出発・途中鹿垣と思われる箇所、角とぎ痕など確認

12:00 山頂到着・折り返し

12:30 火床にて昼食

13:20 下山開始

13:40 滝坂の森へ到着・防空壕跡など見学

14:30 大学へ到着・解散

■概要報告

秋晴れの中、奈良教育大正門から、白毫寺町方面へ移動。東山緑地の鹿垣を見学。江戸時代に作られたとされる鹿垣の遺構を確認、また、周囲にある鹿の採食痕も合わせて確認。周辺森林のギャップには、ナチシダやナンキンハゼなどのシカの不嗜好性植物のみが繁茂している状況を確認した。県有林エリアを抜けて、霊苑周辺の道から高円山登山口周辺に残る鹿垣を再び見学。東山緑地よりも石積みが見え、はっきりと残っていた。

そこから高円山登山口へ抜け登山を開始。鹿の影響により下層植生がほぼない状況や、土砂の流出、倒木などが散見され、春日山同様、高円山もシカ、ナラ枯れ、気候変動の影響で一部崩壊が進んでいることを実感した。火床までの登山道では、ソヨゴやエゴノキなどに樹皮剥ぎ後が多く見られた。










火床からは、景色が開け、北方は、春日山、若草山と奈良公園・東大寺大仏殿が見渡せ、駅前から森林がつながっている状況を確認できた。また、奈良盆地が一望でき、若草山三重目からとは異なる眺望を確認することができた。

火床から上がったエリアでは、クヌギやコナラ、アベマキなどの落葉広葉樹が多いこと、樹齢が低く伐採後の萌芽更新によって根本部分が株立ちになっていたり太くなっているものも多く見られ、高円山が薪炭林として積極的に利用されてきたことが確認できた。また、林内に穴が開けられている箇所があり、戦時中の防空壕ではないかと想像される。

山頂までの道のりは薪炭林から、スギ・ヒノキの人工林に代わり、山頂付近は整地された平坦な場所にでた。周辺はナンキンハゼが繁茂しており、過去に駐車場と指定利用されていたと考えられる場所に出たのち、高円山ドライブウェイの展望休憩駐車場に出る。そこから数メートル車道をあがったところが山頂部で、過去には高円山ホテルがあったが2010年に廃業。現在は更地となっている。

そこから下山し、火床にて昼食。下山は、白毫寺ではなく、滝坂の道へ抜けるルートをとった。滝坂の道に隣接する県有林、通称「滝坂の森」はかつて防空壕であったと言われており、いくつもの横穴が掘られた痕跡が残っている。最後に高畑町周辺を歩き、春日大社末社の赤乳神社を見学後、大学へ帰着。春日山原始林とは異なる植生と、シカによる植生への影響、また過去に人が森を利用した痕跡が多く見られ、興味深い時間となった。

■写真

| | | |
|---|---|---|
|  |  |  |
| 高円山登山口付近の鹿垣 | 樹皮剥ぎされた樹木 | 登山の様子 |
|  |  |  |
| 火床からの奈良公園方面 | 生駒方面 | 防空壕と思われる洞窟 |
|  |  |  |

| | | |
|---|---|---|
| シカによる角研ぎ | 根上りしたスギ | 高円山山頂付近の鹿垣 |
|  |  |  |
| 高円山山頂（ホテル跡地） | 展望所にある歌碑 | 滝坂の森の防空壕跡 |